

総合特別区域評価・調査検討会における評価結果の概要(平成29年度)

2. 分野等別状況 (2)地域活性化総合特区 ⑤農林水産業分野(6/8)

	総合評価 (IとIIとIIIを1:1:2の割合で計算)	I	II	III	総合評価に係る専門家所見(主なもの)
		目標に向けた取組の進捗	支援措置の活用と地域独自の取組の状況	取組全体にわたる事業の進捗と政策課題の解決	
たたらの里山再生特区 (雲南市)	3.3	3.3 <u>進捗度</u> ・人口の社会動態 13% ・まちづくり活動に参画する市民の割合 97% ・市民参加型林地残材搬出量 87% ・コミュニティビジネス売上高 80%	2.7 <u>規制の特例等</u> ・農地取得に係る下限面積要件の緩和等 <u>地域独自の取組</u> ・森林バイオマスエネルギー事業運営業務委託 ・地域づくり活動等交付金等	3.5	<ul style="list-style-type: none"> 多様な取組を通じて、再生可能エネルギーの活用拡大、市民参加、六次産業化等を着実に進めている様子が窺える。 市民参加型林地残材搬出と地域通貨を組み合わせた事業は、市民の林地への関心を高める上でも大変有意義と思われる。「瑞風」の立ち寄りによる効果もあり、農家レストラン等の売り上げが増加していることは喜ばしい。 人口の社会動態について、人口減少を食い止めることは容易ではない。交流人口と関係人口を増やすという戦略でよいと考える。今回はサブ指標を入れることで評価できる姿をしっかりと示すことができおり、このことは特区として重要なことである。ただし、目標からの乖離が大きくなっており、市内の地域別の動態や特徴など、さらに深い分析は必要と思われる。 コミュニティビジネス売上高については販売金額の増加だけでなく、そこで生み出された雇用や、地域内で循環しているお金を視野に入れて分析・評価する必要がある。お金の循環を定量的に把握するのは難しいが、実施できればその意義は大きい。